

ワークプレイスとして国営昭和記念公園を利用した際の心理的効果に関する実証実験

●梅原瑞幾*1)・荒井菜穂美 1)・田中希依2)・今井一隆3)・日下部友昭3)・岩崎 寛1)

1) 千葉大学大学院園芸学研究所, 2) 関東地方整備局国営昭和記念公園事務所, 3) 公益財団法人都市緑化機構

●背景・目的

COVID-19拡大・働き方改革による
ワークプレイスの多様化



オフィス空間緑化による
勤務者の健康効果¹⁾
仕事の生産性向上²⁾



自然豊かな都市近郊の公園内をワークプレイスとする

ここに注目

現状 公園をワークプレイスとする際に獲得できる健康効果
および必要とされる設備に関する調査は進んでいない

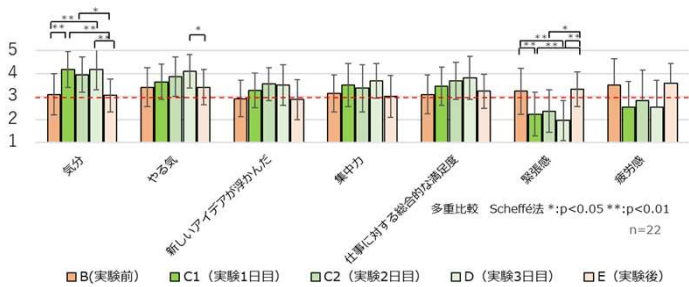
目的：公園内リモートワークに必要な施設や整備の把握 心理面に対する影響を明らかにする

1) 今西弘子・生尾昌子・稲本勝彦・土井元章・今西英雄 (2002) 植物の存在がオフィスで働く人々に与える心理的効果, 園芸学研究, 1(1): 71-74.
2) 鎌田 美希子・中尾 絵一・阿部 建太・岩崎 寛 (2021) オフィスにおける休憩室の緑化が利用した勤務者の心身に及ぼす影響, 日本緑化工学会誌, 47(1): 63-68.

●結果・考察

測定1：仕事に対する主観的心理状態の変化

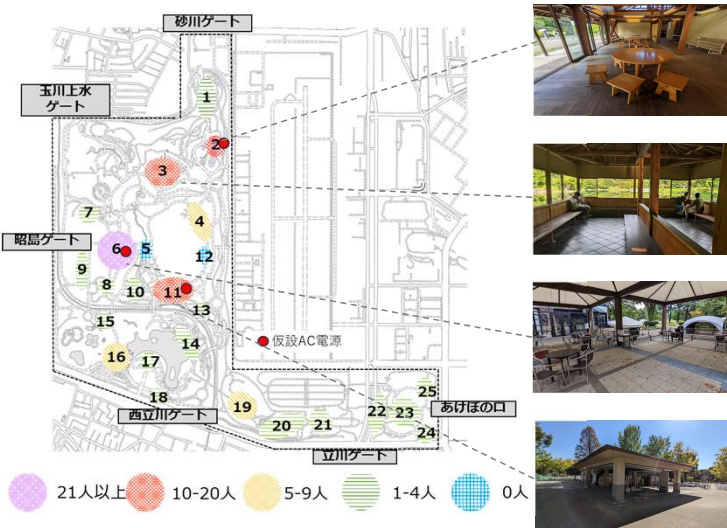
(実験参加前通常勤務後・公園勤務後・実験終了後通常勤務後)



- ▶すべての項目において有意な改善あり
- ▶「気分」「緊張感」では実験前と実験中1日目・3日目間に有意な改善あり
- ▶「新しいアイデアが浮かんだ」「仕事に対する総合的な満足度」では、公園内リモートワーク実施回数を重ねるごとに状態が改善
- ▶一方、通常勤務に戻るといずれの項目も実験前と同様の値に戻る

測定3：リモートワーク利用エリア

(3日間合計n=71 写真は10名以上に利用されたエリア、円の色は利用人数の合計を示す)



- ▶ワーク場所の平均移動回数は1日目:1.8回、2日目:1.6回、3日目1.8回
- ▶テーブルやベンチ、屋根や自動販売機、仮設AC電源等設置場所が使われた
- ▶無料レンタサイクル券を配布したため、入口からのアクセスのしやすさはあまり重要視されない傾向

●研究方法

実施場所：国営昭和記念公園 (東京都立川市緑町3173)

対象者：都内企業に勤務する20~60代30名(男性23名, 女性7名)

実施期間：2022年10月~11月平日から被験者の都合の良い3日を選択
9時30分から17時まで(11月16時30分まで)1時間以上公園で勤務

実験計画および実験の様子：



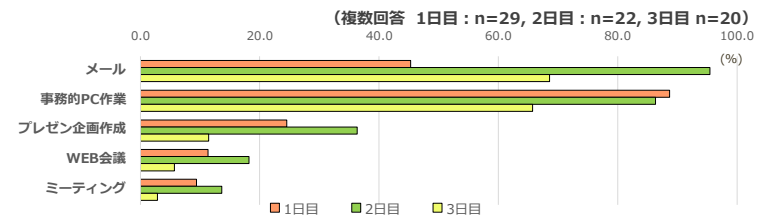
測定1：仕事に対する主観的評価 (実験前中後・アンケートB,C1,C2,D,E)

測定2：公園内におけるリモートワークの内容 (実験中・利用施設調査票)

測定3：リモートワーク利用エリア (毎回公園勤務後・利用施設調査票)

測定4：公園内リモートワーク感想 (実験中・利用施設調査票・自由記述)

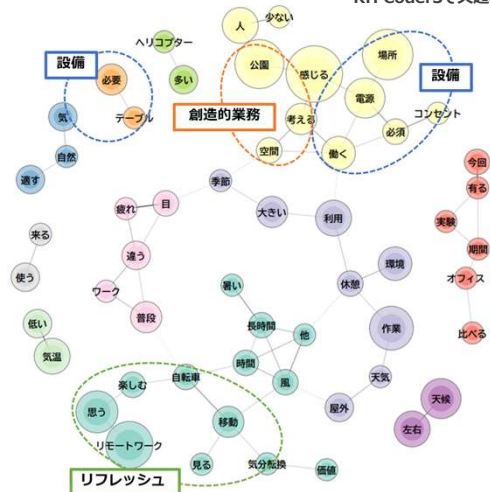
測定2：公園内におけるリモートワークの内容



- ▶「メール」や「事務的PC作業」などが中心
- ▶周囲への配慮により「ミーティング」や「会議」あまり実施されなかった可能性

測定4：公園内リモートワーク感想

テキストマイニング分析:
KH Coder3で共起ネットワーク図を作成



- 設備** 「テーブル」「必要」や「場所」「電源」「必須」等の共起→ハード面整備が重要
- 創造的業務** 「公園」「考える」「空間」の共起→アイデア出し等、創造的業務に公園が適していることを示唆
- リフレッシュ** 「気分転換」「移動」や「リモートワーク」「楽しむ」「思う」の共起→公園リモートワークで仕事に緑地を活用し、リフレッシュが可能

●まとめ・今後の課題

公園をワークプレイスとして利用 → 勤務者の心理面・仕事面の改善に効果
勤務空間を再現するハード面整備が重要

- 一般利用者とのエリア分け
- 異なる季節・長期的な利用
- 継続的な調査の必要あり

謝辞：本調査を実施するにあたり、公園での実証実験に参加いただきました被験者の皆様へ、この場を借りて厚く御礼申し上げます。